

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第1回)

- 1 日時 令和5年5月1日(月) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 木島智恵美委員長、守屋佐千子副委員長、中野隆則委員、
和泉雅幸委員、成瀬由紀子委員、
和田修二委員(校長)、石川雄一郎委員(総括教諭)

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

和田校長：新1年生199名を迎え、全校児童は938名になり、市内で最も多い児童生徒数の学校になった。教職員の人事異動により、教頭をはじめ多くの新しい教職員が着任した。5月8日に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類に移行したことを受けて、従来の感染症対策を一律に講じるのではなく、換気や手洗いといった日常的な対応を継続することを基本とし、「5月8日以降の学校生活」を実施していく。学校運営協議会委員の皆さんから意見を伺いながら学校運営をしていきたい。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の成瀬由紀子委員、武富美由紀委員(教頭)へ委嘱状交付。

(3) 委員自己紹介

(4) 委員長、副委員長の選出

委員長に、木島智恵美委員を選出。

副委員長に、守屋佐千子委員を選出。

(5) 学校運営協議会についての説明

和田校長：(文科省のコミュニティスクールの資料及び海老名市学校運営協議会規則をもとに説明する)

(6) 【協議事項①】令和5年度学校運営の基本方針について

和田校長：学校教育目標は「かしこく やさしく たくましく」を継続する。

今年度のめざす学校像を「一人ひとりの個性を大切に作る学校」と変更

した。併せて、めざす児童像に「お互いを認め合い、ともに育つ子」を追加した。この経緯は、今年度の本校教員による校内研究テーマをインクルーシブ教育の推進としたことを受け、支援を要する児童のみならず、全児童を対象に、自分らしく生活し、自分の個性を發揮できる学校の創るためのメッセージとしたいため。

(他に、各学年の授業時数、日課表、教科担任制、コロナ対策、年間行事予定等について、資料をもとに説明する)

和泉委員：インクルーシブな学校をめざすことは時代の流れでもあり、学校の取組を支持したい。

守屋委員：個々の児童の教育的ニーズに応えられるように、国や県に対して教員の人的配置や加配を希望したい。

木島委員：教員の負担が多くなることを懸念している。

成瀬委員：一人の教員が、多様な特性のある子どもに対応するのは大変なこと。

和田校長：チームで対応することを基本として、多くの教員による多面的な児童理解に努めたい。

木島委員：「令和5年度学校運営の基本方針について」承認でよろしいか。

各委員：(全員拍手)

(7)【協議事項②】令和5年度学校運営協議会実施計画について

和田校長：今年度の学校運営協議会において、協議していくテーマを決めたい。
2つの案を提示する。

(案①)「地域とともにある学校」をめざし、地域が学校の教育活動の中にどのようにかかわることができるか。

(案②)「インクルーシブな今泉小学校」をめざし、多様性を認め合い、一人ひとりの個性を大切に作る学校を創るにはどうすればよいか。

成瀬委員：協議事項を決めるにあたっては、具体的にどのように評価していくのか見通しをもっておく必要がある。

和泉委員：インクルーシブの考え方は、学校に限定されるべきことではないため、地域とともに多様な機会を提供することができるのではないかと。

木島委員：これまで学校と地域が連携してきた実績があるので、地域もインクルーシブな取組を後押しすることができるはず。

中野委員：地域にも様々な年代や多様な職業や人材がいるので、その方々と連携しながら、共生社会の中でインクルーシブを推進できるのでは。

和泉委員：これまでの地域とのつながりを生かしていきたい。

和田校長：『「インクルーシブな今泉小学校」をめざし、地域とともに、多様性を認め合い、一人ひとりの個性を大切に作る学校を創るにはどうすればよいか。』ではいかがか。

木島委員：これを、令和5年度学校運営協議会の協議事項としてよろしいか。

各委員 : よろしい。

(8) 校内授業見学

(9) 情報提供等

石川教諭：今年度よりPTA入会において、加入の意思確認をすることとした結果、約6割のご家庭がPTAに入会することになった。

今後のPTA活動は、「できる人が、できることを、できるときに、できる範囲で！」を合言葉に行っていく。

次回の学校運営協議会は、令和5年9月25日(月)10:00から開催予定。